

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第6回美幌町義務教育学校開校検討委員会
開 催 日 時	令和7年10月28日（火） 18時00分 開会 19時41分 閉会
開 催 場 所	美幌町役場1階 第1会議室
出 席 者 氏 名	<b>【委員】</b> 13名 中川委員長、中山委員、小林委員、長岡委員、伊藤委員、澤田委員、 牛島委員、采女委員、森委員、川添委員、吉田委員、佐々木委員、 熊崎委員 <b>【オブザーバー】</b> 小室教育長
欠 席 者 氏 名	西田委員、豊澤委員、山本委員、辻委員、寺崎委員、加藤委員、 佐藤委員、大原委員、花田委員
事務局職員職氏名	中尾教育部長、高田学校教育課長、 浅野社会教育課長兼スポーツ振興課長、鬼丸博物館長、菅図書館長、 藪下指導主事、辻総務G主査、佐藤総務G主査、堀口学校教育G主査、 大内児童支援主幹、廣田建築主幹、風間総務G主事
議 題	1 開会 2 議事 （1）前回の意見交換の結果について （2）美幌町義務教育学校基本構想（素案）について 3 その他 4 閉会
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	—
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	1名
資 料 の 名 称	○議案 ○資料番号1 令和7年度第5回美幌町義務教育学校開校検討委員会 （意見交換結果） ○資料番号2 美幌町義務教育学校基本構想（素案）
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全部記録
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
事務局	<b>1 開会</b> （進行：中尾教育部長）
中川委員長	<b>2 議事</b> （以降、進行は中川委員長） （１）前回の意見交換の結果について （２）美幌町義務教育学校基本構想（素案）について
事務局	資料番号１～２に基づき事務局より説明 ※基本構想（素案）については、前回の会議で説明した際に未確定となっていた項目を中心に説明
采女委員	（意見等） 24ページの配置イメージを見ると、どちらもかしわの木を全て残した図になっている。ということは、事務局として全て残す考えでこの図を載せたということか。かしわの木については、2回ほど議論して、積極的に切りたいと思う人はおらず、学校を整備する上でどうしても支障になるのであれば切る、残せるのであれば残すという話をしたと思うが、このような図の載せ方だとかしわの木は切れない、という方向へ誘導してしまうではないか。
事務局	通常の基本構想では、配置イメージまでは載せていないが、この委員会の中で時間をかけてかしわの木と学校の配置について議論してきたことを踏まえ、掲載させていただいた。 今後の流れとしては、パブリックコメントや町民説明会でご意見をいただきながら基本構想を決定し、来年度の基本設計の中で様々な配置のパターンを示した上で、最終的にはしっかりと町民の皆様に説明をして配置を決定していくことになる。
采女委員	基本設計を決定する権限というのはこの委員会にあるのか。
事務局	開校検討委員会は基本構想の策定を目指す位置づけとなっており、今年度限りのものと考えている。基本設計については、来年度設置する予定の開校準備委員会の中で協議・決定する。場合によっては、開校検討委員会の委員の皆様にも入っていただくことになるかもしれないが、詳細はまだ決まっていない。
牛島委員	前回の会議で配置イメージが何パターンか出ていたが、それらを踏まえてこの２パターンに絞ったということか。
事務局	今回の配置イメージはあくまでも例であるため、この２つに絞ったわけではない。具体的には先ほどお伝えしたとおり、来年度の基本設計の中で決定する。ただ、このように配置イメージを載せると、これに引っ張られてしまう可能性があるのも事実であり、掲載方法について再度検討させていただきたい。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
長岡委員	20ページの概算事業費について、町の負担とか補助金についてはまだ何もわかっていないのか。
事務局	21ページに財源について記載しているが、まず文科省の補助金がある。補助割合の基本は55%となっているものの、補助対象・対象外の精査があるため、実質的な交付額は事業費の4割とか3割まで落ちてしまうとの話も聞いている。補助金の残りの部分は過疎債を想定しており、もし活用ができた場合には7割が交付税として国から補てんされるため、実質的な町の負担は3割となる。
長岡委員	20ページに既存校舎の解体についての記述があるが、個人的には東陽小学校を残し、マナセンやコミセンの集約化を検討しても良いのではないと思う。市街地にあって高齢者などが利用しやすく、元は学校施設のためスポーツもできるし、各教室で色々な活動もできると思う。
采女委員	1ページの小中一貫教育推進の背景に「不登校児童生徒の増加、特別支援学級の児童生徒の増加等の課題も見られます」とあるが、美幌町も同じ状況なのか。
事務局	毎年、不登校や特別支援学級の実態は把握しており、同様の傾向にある。不登校に関しては、コロナを契機に日常生活が昼夜逆転し、学校に戻れなくなったなどの要因があり、美幌町に限らず全国的に増えてきている状況である。
采女委員	改めて基本構想を読んでもみると、小学校と中学校を一緒にすることのメリットが漠然としているような気がする。それから美幌スペシャルの部分、英語教育・キャリア教育・ふるさと教育はどれも小中一貫にしなくてもできると思うし、英語教育はもう普通に学校でやっているのでは。
吉田委員	<p>美幌町の目玉となるような内容があっても良いのでは。この素案の内容だと、必要なものは揃っているように見えて、あまり目玉になる部分がないのかなと感じた。お金を使ってせつかく整備するのだから、皆がワクワクするような目玉みたいなものについて加えていただきたいと思う。</p> <p>気になった点として、18ページに特別教室の記述があるが、既存のものを流用するのか新しいところに作るのかその辺は考えられているのか。特に学校図書館は既存のものを残すのか。あと特別活動室はどのようなものなのか。</p> <p>また、地方の学校ではオンラインでの連携や授業が重要になるはずだと思うので、それを行うための部屋の確保についてや、子供たちは全員タブレットを使うと思うので、学校が一つになっても当然Wi-Fi環境が整ってるだとか、そういった部分も基本構想に盛り込んでおくと良いのではないかなと思う。</p>
事務局	<p>ご意見としてお預かりするが、答えられる範囲としてオンライン連携・授業については今の学校の環境でも実現できる。</p> <p>義務教育学校のメリットとして小学校と中学校の乗り入れ授業や教科担任制の小学校高学年への導入、これまで視察した学校でも見受けられた縦割り活動といったものが挙げられる。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
事務局	<p>昨年策定した小中一貫教育推進ビジョンの中には縦割り活動などの細かい部分も盛り込んでいる。ビジョンの内容とうまくリンクできるよう基本構想の見せ方について検討したいと思う。</p> <p>特別教室については基本設計の中で具体的に考えていくが、学校図書館は様々な活動がそこでできるような広い空間として新しく作り直す方向で考えている。</p>
森委員	<p>特別教室について、例えば理科室が後期課程では1室となっているが、後期課程だと理科の授業時数が33時間あって、これを全クラスで一つの理科室でやるのは難しく、大体多くの学校では第1理科室、第2理科室というのを設けている。技術室も木工室と金工室というのがあるが、木工の授業をやるとすぐく木くずが飛んだりして他のクラスの授業に影響が出る。家庭科室も調理室と被服室というのが完全に分かれていて、同時に授業をすることもある。中学校の状況を踏まえると、その室を増やした方がうまく回せるのかなと思う。</p> <p>また、目指す子供像などビジョンから載せている部分がわかりにくいという話もあったが、やはりもっと端的に示した方が良いのかなと思っている。6ページに「未来に向かって創造的に考え主体的に行動する子供」と書いているが、ここを「主体性」とか端的に示した方が多くの町民に伝わるのではないかなと思う。</p>
事務局	<p>教室数の部分は決定ではなく、あくまで目安としている数である。今、各学校にも意見を集約しているため、今後詰めていきたい。</p>
伊藤委員	<p>基本構想自体がこの会議でどこまで落とし込もうとしているのか見えてこない。せっかく素晴らしい意見が出ているのに、それをどの程度反映させていこうという考えなのかわからない。事務局の考えを反映させようとしすぎなのかなと思う。皆さんの意見で基本構想に落とせるものはしっかりと落としていって欲しい。</p>
佐々木委員	<p>基本構想の段階では柔軟に変わるところが大きいので、現状を考えるとここまでなのかなと思っているが、この1年間の議論の集約をどこかで示してもらわないとこの期間が何だったのかなになってしまう。</p>
小林委員	<p>先ほど視察した学校について触れていた場面があったが、せっかく良い学校を見てきたのであればそれを言葉だけではなく資料で示してもらいたい。義務教育学校にすることの目玉とかメリットについて短い言葉でわかりやすく町民に説明できるような形に示してもらいたい。</p>
中山委員	<p>皆さんおっしゃるとおり、これから基本構想を形にして町民の理解を得ていくことになるので、義務教育学校の必要性や魅力をしっかり伝えていく必要がある。</p> <p>基本構想ができあがって、この後開校準備委員会の部会で具体的に動いていくことになるので、この委員会は、次年度への橋渡しのような位置づけなのかなと思っている。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
熊崎委員	<p>あまり誘導的になってほしくないと思う。事務局としてこういうことで考えてきたので皆で考えましょう、そういう会議だと思っていて。お互いに腹を割って意見交換しようと改めて感じた。会議をやりましたという実績だけ残るような会にはしないほしい。</p>
澤田委員	<p>毎回、この会議で何を決めているのか正直わからなくなっている。</p> <p>基本構想の段階だと不確定な要素がたくさんあるので、なかなか決められない部分もあると思いながらも、この会議で何を決めました、何を決めたいです、というのを毎回はっきりさせて進めていってほしい。</p>
川添委員	<p>課題の見える化とその共有が重要だと思う。色々な角度から色々な意見が出てくると次に進めるのが難しくなってくるので、課題の見える化して、それをどう一つ一つ解決していくかという形で進めていけば案外見えてくるものもあるのではないと思う。</p>
牛島委員	<p>20ページの既存校舎の解体の記述について、有効活用についての意見もあったので、削ってしまっても良いのでは。この表現だと解体する方向で考えていると捉えられてしまうのでは。</p> <p>また、10ページの小中一貫教育の学校形態の部分について、美幌町は施設一体型で進めることが決まっていると思うので、解説を入れる必要はないのでは。</p>
佐々木委員	<p>基本構想の最終的な決定は誰が行うのか。</p> <p>この会議が委員の意見を聞いて結局は決裁権者が決めますという構造になってしまっているのであれば、私が思っていた皆で一緒に良いものを作ろうという目的からは外れてしまうのかなと感じる。</p>
事務局	<p>昨年のビジョンの流れでいくと、基本構想案が完成後、パブリックコメントや町民説明会などを実施し、総合教育会議という場で町長と教育委員の意見交換も行う。その後、最終的には教育委員会定例会の中で決定する形になると思う。</p>
小室教育長	<p>既存校舎の解体や配置イメージの部分は、ご意見のあったとおり誤解を招く恐れもあることから、表現について改めて考えさせていただきたい。</p> <p>また、義務教育学校を作る上での目玉やメリット、魅力についても伝わりづらい部分があったと思うので、少し時間をいただいてどのように落とし込んでいくか考えたい。</p> <p>この会議の進め方については、事務局としての考えをお伝えして、委員の皆様からご意見をいただいてゴールに向かって進めていけばよかったのかもしれないが、何度かグループで忌憚のない意見をいただいて少しずつ形を作っていくというやり方を取った。これが良かったのか反省点もある。</p> <p>ただ、皆様と考えが一緒なのは、子供たちがしっかり学んで成長するためのより良い学校を作りたいということ。町民みんなの学校を作る、美幌町の一つの学校をみんなで作るということで、その機運を高めていきたいと思っている。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
小室教育長	<p>これから町民説明会などを実施していくことになるが、その前にこの開校検討委員会の委員の皆様にご理解いただけるような基本構想でなければ、当然町民の皆様の理解も得られないものと思っている。そういった意味では、今日のご意見をしっかりと受け止めて、教育委員会全体で知恵を絞って、次回の会議でしっかりとご説明できるよう準備したいと思っている。</p> <p><b>3 その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中川委員長より一定期間不在となる旨の報告</li> <li>・ 不在中の委員長職務の代理として、中川委員長より中山委員を指名・決定（美幌町義務教育学校開校検討委員会設置要綱第5条第3項）</li> <li>・ 次回の開催日程等について報告（11月に開催予定）</li> </ul> <p><b>4 閉会</b></p> <p style="text-align: right;"><b><u>19時41分 閉会</u></b></p>